

学校運営計画							
学校運営方針 (1) 地域の進学校として、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する新しい大学入試制度に対応した教育課程を実践する。 (2) 授業における指導内容・方法の一層の改善を図り、生徒の進路希望達成につながるよう研究、工夫に努める。 (3) 生徒が自己の能力、適性を伸ばし、自己実現を図るよう支援するため、キャリア教育を充実させる。 (4) 生徒が基本的な生活習慣を身につけるよう、的確な指導を行うとともに、心の弱さや悩みを抱える生徒、特別な配慮が必要な生徒へのきめ細かな支援を行う。 (5) 生徒が主体的、計画的に学習を進めるとともに、部活動や各種行事等へ積極的に参加することで、文武両道の充実した高校生活を送らせる。							
三つの方針(スクール・ポリシー)							
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①ふるさとへの誇りとグローバルな視点の両面を持ち、社会に貢献する態度を育てます。 ②深い知識・教養と思考力・判断力・表現力、課題発見・解決力を育てます。 ③他者の考えを理解・尊重し、互いに認め合う豊かな人間性を育てます。 ④高い志と健やかな心身を持ち、自ら考え行動する力を育てます。						
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①地域との連携や国際交流を通して、地域理解やグローバルな視野を育む学びを推進します。 ②ICTを活用し、基礎基本の定着を図った上で、より発展的な学習を充実させ、高い学力の育成に取り組みます。 ③人権教育を充実させるとともに、生徒が協働的に取り組む教育活動を推進します。 ④学習活動や特別活動、部活動等全てを重視し、自主的活動を奨励します。						
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①郷土を愛し、地域や国際社会に貢献する人材となる意志を持つ生徒 ②意欲的に学習に取り組む、進路目標の達成に向け努力を惜しまない生徒 ③多様な価値観を受け入れ、他者と協働して行動できる生徒 ④部活動や生徒会活動等、興味・関心がある分野で、自らを高めるためのチャレンジ精神にあふれる生徒						
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標					
【成果】 ・国公立大学合格者数が昨年の38に引き続き35名となり、目標の30名を大幅に上回った。また、大学等進学率も57.3%となり、昨年度より2.9%増となった。 ・令和6年度入学者一般選抜の倍率が1.0倍と、ほぼ昨年度なみであった。 ・特色化選抜では、倍率1.2倍と、昨年度と同じであった。 【課題】 ・学習習慣の確立と進路意識の向上による生徒の希望進路の保障。 ・きめ細かな生徒支援体制の確立と、家庭・関係機関との連携によるの支援強化による休・退学者の減少。 ・学校生活や部活動、地域連携の取り組みなど本校の魅力の地域内外への一層の発信	・生徒の進路意識の向上と丁寧な学習指導による確実な学力の育成 ・生徒一人ひとりの進路希望や特性に合わせた進路指導の充実と進学実績の向上	・個々に応じた具体的で丁寧な進路指導の実施 ・家庭学習の充実と学習習慣の確立による基礎学力の養成 ・大学等進学率70%以上、国公立大学現役合格30名以上の達成					
	・きめ細かな生徒指導の実践 ・主体的に行動する生徒の育成 ・いじめ防止対策等、生徒指導の充実	・生徒理解と個々に応じた生徒指導 ・生徒会や部活動の活性化 ・いじめ見逃しゼロの推進 ・基本的な生活習慣の確立					
	・開かれた学校づくりの推進と地域の学校としての活動	・特色ある取組みや教育活動の成果・実績の積極的な発信 ・地域と連携した学習活動と、キャリア教育の充実					
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価			
・生徒の進路意識の向上と丁寧な学習指導による確実な学力の育成 ・生徒一人ひとりの進路希望や特性に合わせた進路指導の充実と進学実績の向上	・個々に応じた具体的で丁寧な進路指導の実施 ・家庭学習の充実と学習習慣の確立による基礎学力の養成 ・大学等進学率70%以上、国公立大学現役合格30名以上の達成	学習支援	平常補習の計画的な実施等、全校を上げての取組の強化を行う。 模擬試験や学びの基礎診断を活用した生徒の学習状況診断や、分析・データを活用した学習指導を行う。 新しい入試制度に対応できる学力の育成を目指し、対応した授業展開を進めていく。	A	A		
		進路実現に向けた意欲喚起	外部講師等による進路講演会、大学講義体験を実施し、進学意識の高揚を図る。 大学訪問の実施やオープンキャンパスへの参加を促し、具体的な進路計画作成を支援する。	A	A		
		進路情報の提供	「進路の手引き」の活用を促進し、「進路だより」を定期発行する。 最新の受験情報を提供し、大学入学共通テストなど新しい入試制度へ対応した指導を行う。 職業講話、面接指導、公務員模試等の就職指導を行うとともに関係機関との連携を図る。	B	B		
		学習時間の確保	学習時間調査により生徒の家庭学習時間の実態把握をし、個々に応じた指導を行う。 平常、休業中などに補習を行い、学習機会を設定するとともに、成績不振者などにも対応する。 週末課題や、朝学習を実施し、スモールステップでの学習に取り組みせ、基礎学力の底上げを図る。	A	B		
		授業改善	タブレット端末や電子黒板など、ICT機器の積極的な活用を図り「主体的、対話的で深い学び」や効率的な授業展開を促める。 公開授業実施と互見授業を行い、学校全体で授業改善に取り組む。	A	C		
		・きめ細かな生徒指導の実践 ・主体的に行動する生徒の育成 ・いじめ防止対策等、生徒指導の充実	・生徒理解と個々に応じた生徒指導 ・生徒会や部活動の活性化 ・いじめ見逃しゼロの推進	生徒理解	すべての生徒と教育相談を実施し、必要に応じて組織的対応や保護者面談、家庭訪問等を実施する。 生徒理解のための情報共有及び校内研修の実施。特別支援を必要とする生徒の情報共有を行う。 生徒の心身状態を常に把握し、スクールカウンセラー等と連携した対応を行う。	B	B
				生徒会行事の企画、運営を通じ、主体的な活動、態度の育成を図る。	A	A	
				担任などの面談を通して生徒の生活、活動実態を把握し、いじめ防止や前兆段階での発見に努める。	B	B	
				アンケートの実施、結果の共有、必要に応じた聞き取りや生徒観察を行い、組織的で迅速な対応を行う。	A	A	
		・基本的な生活習慣の確立	・基本的な生活習慣の確立	生徒への講話、職員研修、保護者・地域・関係機関等との連携強化などを行い、いじめの起こりにくい環境をつくる。	A	A	
普段から挨拶、服装、遅刻防止指導の徹底を促し、基本的な生活習慣の確立を意識させる。	A			B			
携帯端末の使用や、SNSの利用などについて、トラブルや学習の妨げにならないよう指導を行う。	B			B			
・開かれた学校づくりの推進と地域の学校としての活動	・特色ある取組みや教育活動の成果・実績の積極的な発信 ・地域と連携した学習活動と、キャリア教育の充実	学校説明会、オープンスクールを行い、本校の特色や魅力を中学生、保護者に積極的に伝え、志願者の増加を図る。	A	A			
		学校ホームページ、Google Classroom等を活用し、情報提供、連絡等を頻繁に行い、情報発信の手段として定着させる。	A	A			
		生徒会が発行する学校新聞や機関誌等を通じ、教育活動を発信する。	A	A			
		PTA、学校評議員、地域の声を聞く会などを通じ、外部との意見交換をしながら、活動内容について再考していく。	A	B			
		まちの産業発見塾への参加など、地域と連携したキャリア教育を取り入れ、生徒の自己実現を支援する。	A	B			
地域行事への参加や地域清掃活動を実施し、地域との結びつきを強め、地域の学校としての活動を行う。	B	B					
サイエンスフェスティバルや学習成果発表など地域の人向けの講座、学校行事を通じ活動を発表する。	C	B					
成果	・国公立大学合格者数および大学等進学率が目標以上の数値をあげるなど、進路指導の取り組みが一定の成果を上げた。 ・特色化選抜で倍率が1倍を上回るなど、特色のある学校づくりが評価されている。	総合評価		B			